

かがやき

No.2

静岡県立浜北特別支援学校

令和5年度学校だより

令和6年1月31日発行



HAMAKITATOKUSHI.OFFICIAL

◆私が体験した「学校と地域の関わり」◆

副校長 鈴木 真一



副校長 鈴木真一

私が初めて管理職として赴任したのは浜松湖北高校佐久間分校（旧佐久間高校）でした。山間部にある佐久間分校は地域との結び付きが強く、私がいた時も、授業で地元の方にそば打ちを教えていただいたり、観光の看板を制作したり、狩猟免許を取得する生徒がいたりするなど、まさに「地域の中の学校」でした。一方、私が赴任した当時、佐久間分校の入学生数は非常に少なく、廃校の危機にありました。地域の方々は「高校が無くなってしまったら、ますます地元は活力を失ってしまう」という危機感を持っていました。そこで、以前に使われていた寮を復活させ、地域外に積極的な呼び掛けをし、翌年には廃校を回避できるだけの入学生を確保することに成功しました。寮の運営は地域の方々を中心に、食事の準備や寮生の世話など、積極的に支援をしてくださいました。地域とともに生きる佐久間分校での

経験は、学校と地域とが連携する姿を私に強く印象付けるものでした。

次に赴任した浜松城北工業高校は、卒業生の7割が就職希望者で、そのほとんどが地元の企業へ就職するという学校でした。現在でも国から東海地区で唯一の「マイスター・ハイスクール事業」の指定を受け、地元企業であるヤマハ発動機と連携して教育活動を行っています。工業が盛んな地域の次世代を支える人材を輩出していることから、佐久間分校と同じく地域との強いつながりを感じさせる学校でした。

そのような私が、今度は浜北特別支援学校への赴任となりました。「友と輝き、地域に生きる」というスローガンを掲げた、文字通り地域に密着した学校です。学習指導要領には「社会に開かれた教育課程」という考え方がありますが、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会とが共有する」という考え方を大切に、地域と連携・協働しながら目標とする学校教育の実現を目指していきたいと思っています。

地域の方々との活動が復活しました！



あいさつ運動、行事への参加、学習の補助など、今年度に入り、地域の方々との活動が復活しました。ケヤキの会、浜北女性の会、かやのきボランティア、中部電力、やまはる園芸、菊司さんを始め、地域の皆様、御協力ありがとうございました。

小学部

◆中瀬小学校との交流◆

7月に、中瀬小学校のペアの友達とリモートで自己紹介をしました。10月には中瀬小学校の皆さんに来校いただき、校内のウォークラリーを行いながら、浜北特別支援学校について紹介しました。ペアの友達と笑顔でやり取りをしながら、交流をすることができました。11月に中瀬小学校に手紙を届けに行くと、大歓迎で迎えてくれ、帰校する時にはアーチを作って送り出してくれました。これからも、お互いを近くで感じ、知ることができる交流に取り組んでいきたいです。



リモートで自己紹介をしました。画面をよく見て参加しました。



ウォークラリーでは、ペアの友達と一緒に、校内を回りました。

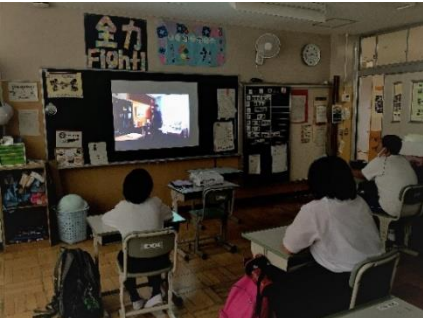


手紙を届けて帰るときには、アーチを作って見送ってくれました。

中学部

◆浜北北部中学校との交流◆

10月に、浜北北部中学校の生徒が作成した学校紹介やクラス紹介の動画を各クラスで見ました。本校の生徒は、11月の音楽交流で行う合同合唱に向けて手話の歌詞カードを作成しました。音楽交流当日は、本校を会場にして互いに合奏や合唱を発表し合い、互いの学びを共有し合うことができました。また、合同合唱ではみんなの気持ちが一つになった素敵な『ともだちになるために』の合唱になりました。



北部中学校について興味関心を持つことができました。



手話を覚えてもらえるように、歌詞カードを作成しました。



北部中の合唱『ビリーブ』、きれいな歌声に聴き入っていました。

高等部

◆浜名高等学校との交流◆

6月には、浜名高校の文化祭にて本校の作業製品の展示会を行い、浜名高校の生徒会の生徒と一緒に準備をしながら交流を深めました。12月には浜名高校を会場に販売会を行いました。浜名高校の生徒や先生方に、気に入った製品を購入していただきました。合同美術作品制作の交流では、浜名高校の美術部員と「応援」をテーマにした作品と一緒に制作し、大きな応援旗を完成させることができました。



浜名高校の文化祭に、本校作業製品を展示してもらいました。



作業製品の販売会。たくさん購入していただきありがとうございます。



浜名高校美術部員が本校に来校し、応援旗と一緒に制作しました。